

令和4年度普及活動アルバム

松本農業農村支援センター

令和4年度は、5月下旬にぶどう等が降ひょうにより被害を受けたため、事後対応指導を行うとともに、その後の状況把握に努めました。それ以降は大きな気象災害の発生はありませんでしたが、近年多い極端な気温変化や偏った降雨などにより、農業者の皆さまは、農作物の栽培に気を遣った一年でした。また、新型コロナウイルス感染症により生産・販売活動に影響が続くなか、燃油、肥料、飼料、資材等の価格高騰が追い打ちをかけました。一方、国際情勢から食料安全保障の考え方がクローズアップされており、国内農産物の生産の増加や農業経営の向上に追い風になることを期待するところです。



【通年】

経営体への支援

経営課題を解決する意向の強い20経営体を重点的に、サポートの専門家（雇用・労務管理や事業継承など）とともに課題解決支援を行いました。また、インボイス制度や現場での労務管理を学ぶ農業経営相談会を開催し、経営課題を見つめ直す動機付けを行いました。



【5月】

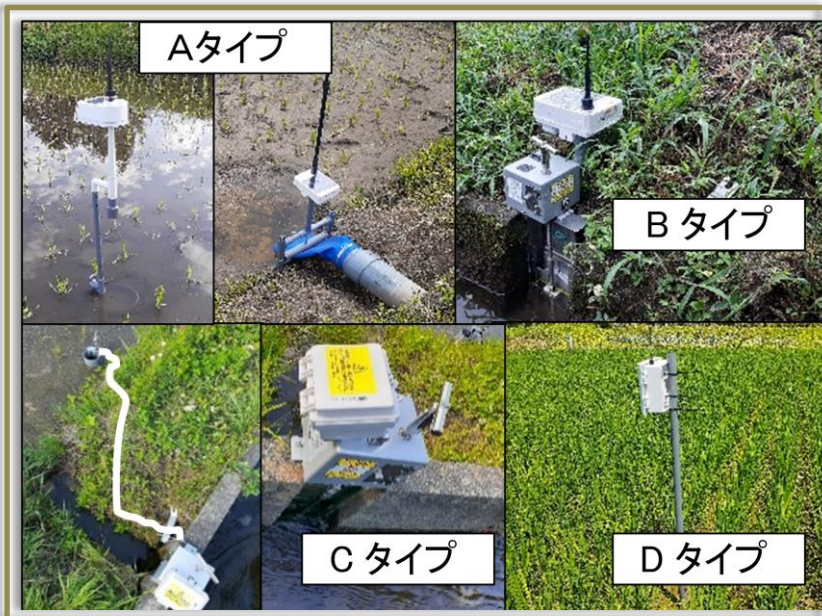
無煙炭化器の実証

地球温暖化の原因となっている二酸化炭素を含む温室効果ガス削減に向けて、果樹せん定枝の炭化の推進に当り、りんご、なし、ぶどうのせん定枝でJAと連携して実証試験を行いました。ほぼ無煙での燃焼が確認でき、具体的な指導を進めるとともに、着火方法の工夫など改善を行っていきます。



**【6月～2月】
アグリマスターセミナー**

新規就農者等を対象に、農業経営に必要な知識と技術を習得し資質向上を図るため、新規就農者等を対象にアグリマスターセミナーを開催しました。基礎コースでは刈払機等の安全な使い方や肥料価格高騰対策の一つとして土壌診断を行いました。経営管理コースでは農業簿記の習得を目指しました。



**【7月】
スマート農業の推進**

水管理作業を補助するスマート農業機器として、水位を遠隔監視できる水田センサーや自動給水栓など様々なタイプが開発されています。そこで、数種類の水位計や自動給水栓を組み合わせ、安曇野市の水田で可動の安定性やメリットを確認しました。また、見学会を開催し、スマートフォンを用いた遠隔操作の実演を行いました。

Z



**【8月～10月】
信州の伝統野菜への取組**

穂高いんげんの多くは個人で栽培されていますが、高齢化により採種や栽培技術の伝承が危惧されているため、展示ほの設置、花や若莢の観察会、採種講習会の開催により、穂高いんげん部会の活動を支援しました。



【8月】

スイカ炭疽病対策支援

近年は夏季の多雨や長雨などにより従来どおりの農薬散布時期・間隔では防除が難しくなっているため、関係機関と連携してクローブナビを試験導入し、スイカ炭疽病の発生予察と予察を活用した防除体系の検討を行いました。また、適期防除の情報提供により生産者の防除意識の向上が図られました。



【9月～1月】

農業士協会の活動支援

農業士協会には、松筑支部 20 名、安曇野支部 16 名の会員が在籍し、協会の活動を通じて会員同士の交流や資質向上・経営発展につながる取組を行っています。松筑支部ではインボイス制度の研修や茨城県土浦農業士会との情報交換会、安曇野支部では中央卸売市場大田市場の視察などを行いました。



【10月～1月】

農業経営士の活動支援

農業経営士は、地域農業のリーダー的存在で、協会の松筑支部 22 名、安曇野支部 14 名が所属しています。南安曇農業高校の生徒及び教員と農業後継者の確保に向けた交流会を開催したり、「サラリーマンスタイルの農業の実践」に向けて松本市及び安曇野市の職員を招いて情報交換を行いました。

地元の小学生のりんご体験学習会も開催しました。



【11月、12月】

農村生活マイスターの活動

より豊かな農家・農村生活の発展を目指して地域の実践的なリーダーとして農村生活マイスターは活動しています。健康的な体づくりのための食事のとり方、ストレッチ体操を学ぶ研修会や安曇野の農業とともに生きる女性たちの交流会で「私たちのSDGsと称した保存食づくり」を実施しました。



【1月】

青年農業者研修会の開催

若手生産者、新規就農者等の自己研鑽や相互交流のため、研修会を開催しました。研修では、令和5年10月から導入されるインボイス制度の概要と農業経営への影響を学びました。第2部でプロジェクト発表・意見発表、第3部では各青年クラブから特徴的な活動について紹介されました。



【10～3月】

農地風食の抑制対策

松本盆地南西部で発生する風食は、地域にとって長年の課題です。松本南西部地域風食防止対策協議会や市町村と連携し、抑制対策試験を実施しています。今年度は、新たな被覆作物、障壁作物、べたがけネットといった対策の効果を検証するほか、気象観測やタイムラプスカメラで発生状況の解析に努めました。